

平成25年度 わくわく市民懇談会

1 日 時 平成25年8月7日(水) 午後4時35分～午後5時30分

2 場 所 中野工業会館

3 出席者 新井工業団地協同組合 19名
市長、商工観光課長、商工観光課長補佐、随員職員2名

4 市長講話

「これからの中野市 ～信越9市町村広域連携広域観光連携を中心に～」

- ・冒頭あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ・市を取り巻く環境変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ・人口減少について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ・地域を豊かにする経営思想・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ・広域観光連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ・政策ディメンション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ・終わりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ・質疑応答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

「市長講話」

冒頭あいさつ

- もう私の話を何度かお聞きになっている方もいらっしゃるかと思いますが、中野市長を拝命してから私がどんなことを考えて毎日を過ごしているかということのを少しお話しさせていただきたいと思います。

市を取り巻く環境変化

- 中野市にはどんな問題が渦巻いているか。それは人口の減少であり、この問題は中野市の問題ではなく、これからの日本のファンダメンタルなことで、人口減少によりいろいろな問題が発生してくる。それを解決していくことが重要であると考えている。
- 2番目は、新幹線の開業です。これによりなんらかの影響があるのではないか。もしかしたら多くの影響があるかもしれない。逆に言うと負の影響ではなくて、プラスに考えてこれを活用していくということが、これからの中野市の活性化につながるのではないか。
- 3つ目は、グローカリズムです。皆様はもう企業経営されていらっしゃるので、国際化やインターナショナルというグローバルな視点で物事を考えているかと思います。私たちが日常過ごしている中でも、グローバリゼーションという言葉は言われて久しいが、グローバルな視点で考えて中野市はどうなるか。軸足は地域に置き、視野は広くものを見るという、そういう見方が必要になってくる。常に多角的な視野でものを考えようということです。
- 4つ目は、豊かさの変化です。これからのマーケティングの展開において「地域を売る」ということに関しては、この豊かさの変容ということを常に頭において考えていかなければならない。どうしたら人に知ってもらえるか、人に来てもらえるか、人に住んでもらえるか、ということを考えていく時代です。

人口減少について

- 日本は22世紀になるとものすごい高齢化率になる。先進国が急速に高齢化を迎える中で、日本がビジネスモデルや考え方、社会政策の処方箋などを考えれば、それを世界に売れるという人もいる。課題先進国としてその解決モデルを売るという考え方はプラスに考えられる要素であり、重くのしかかる高齢化ではない。常に人口が増える時代から、これからは人口が急速に減っていくという基調の中で、私たちはいろいろな街づくりや経済を考えていかなければならない。切り替えが必要です。今までは努力しなくても増えた。これからは努力しなければ増えない。商売も同様に、作れば売れる時代から作っても売れない時代。その中でワントゥワン

マーケティングなどのマーケティングが出てきたと私は思います。

- 人口減少がもたらすものは、財政危機・医療崩壊・コミュニティー崩壊。こういったものは都市でも起こります。田舎で起きていることは都市でも起こる、都市で起きていることは田舎にも起きる、どこでも同じ基盤の上に立っているはずなので、遅かれ早かれ直面する問題は一緒です。そういった中で中野市として 10 年後、20 年後の総合的・戦略的な目標を立ててそれに向かっていく。中野市にも地域を想う方がいらっしゃるので、地域学を起こしながら郷土愛を育み政策を展開していく。

地域を豊かにする経営思想

- 企業誘致というのがありますが、これからは人を誘致していくことだと考えています。起業人を誘致するという。働いていない若い人たちが全国で 330 万人位いるが、その中の 1%でも、起業したいがチャンスに恵まれず働いていない人がいたら、中野市に来たら何かしらチャンスがある、という仕掛けを作ったりすれば、人が来るのではないかとということも考えている。
- 老人が増えれば公共交通政策も必要になる。コンパクトシティ＝効率のいい街づくり。人口が少なくなるので、みなさんと一緒にこの地域を市民参加型で経営していくということを考えていかなければならない。
- シティセールスをどう仕掛けようか、今考えている。これは情報発信にもつながる。情報発信は機能的に目的を明確にしてやっていく必要がある。
- 連携＝ないものは他と連携して資産を共有するという。
- 自治体経営改革というのは、これからは行政も儲けてもいいのではないかと。行政が儲けなくても、民間のみなさんと一緒になって新しい仕掛けを積極的に考えていく。これまで自治体は社会保障のようなセーフティネット＝基盤整備・環境整備だけでよしとされていたが、これからはもっと積極的に、私たちがより豊かになる世界を作っていく必要があるのではないかと。

広域観光連携

- 広域 6 市町村の中で、どういったことができるか。その中で中野市のポテンシャルが下がることはないか。Facebook をやっていて【中野市は新幹線飯山駅と小布施に挟まれて、もうダメになってしまう】というメールをいただいた。でも私はそうは思わない。これはチャンスなんだと考え、中野市が持っているポテンシャルを総力でアピールし、今までやらなかったことをやればよい。やってみてどういう感触を得られるか。
- 9 市町村の広域圏は上信越高原と信越 5 高原に挟まれた、世界に稀に見る地域である。これを国内にアピールするのではなく、世界に向けてこの地域がいかに優れているかを訴える。
- 善光寺や小布施にきた 100 万人をなぜ中野市へ呼び込めないか。すぐその岩松

院へ 100 万人が訪れているのだから、その人たちをそこから先の北信州に呼び込みたい。動いてみてまた判断すればいい。広域で仕掛けていく。

- 私は首都圏ばかり考えていたが、私たちにとっては関西圏が今後の魅力的な商圏になるのではないかと考えている。新大阪から 3 時間半で長野に来られる。東海道新幹線はほとんどがビジネスマン (80~85%)。そういう余剰がないところにパッケージ旅行は生まれないので、北陸新幹線にこそパッケージ旅行が生まれるのではないかと。こういうことが人流の増える要因になるのではないかと思う。
- 10 年 20 年先においても、中野市がこの北信の中心地域でありたい、あるべきだと思う。中野市はポテンシャルが高い。本当に小さくコンパクトにまとまった経済の中心地であると考えている。2010 年に 45,638 人の人口が、推計によると 2030 年には 38,786 人になる。減少率は 15%。これは他の市町村と比較しても低い。だからと言ってこれに甘んじていけない。「人口減少下においては都市に人口が集中してくる」と言われているが、都市に魅力がなければ他の都市へ行ってしまう。だから街づくりは環境を整え、他の都市と比べて比較優位でなければならない。飯山市と比較した数字があるが、中野市は圧倒的に優位。もっと自信を持ってやらなければならない。
- 中野市の「緑豊かなふるさと 文化が香る元気なまち」というキャッチフレーズがあるが、こういう町は全国にたくさんある。これをもっと掘り下げて具体的な地名 (北信州・たかやしろ・日本一の…など) を入れて他との差別化を図るような明確なコンセプトを是非作りたい。これがまさにブランディングのひとつ。これをいずれやりたい。
- ツーリズムの中身が変わっている。消費文明から生産文明へ。体験型や生産現場を見ることで人は安心安全を感じる。今までは与えられたものを買っているだけだった。豊かさの中身が変わってきたことで、みなさんツーリズムに走るのではないかと。
「過ごしたかった日常」。非日常ではなく、もし別の人生だったらこういう人生を過ごしてみたいな、という空間を求めている。
- 信越自然郷の中で中野市を明確に位置づけないとぼやけてしまう。「生産拠点です！」だけではぼやける。逆にイメージ的には周辺都市に吸収されてしまう。そこで、中野市のブランドを明確に打ち立てなければならない。そういうことをきちんとやれば、中野市の地域ブランドはできると思う。それだけ中野市は歴史が古く、歴史文化、産業文化、民族文化もある。それを整理してそれぞれの地域で特徴を活かせば景観も整備できる。
- 今、一番必要なものは、情報発信。いつ行けばこんなものがある、というものをいかに知らせるか。そして対象=誰に来てほしいかを明確にする。対象によって発信の仕方が変わってくる。これを全部まとめてやれるのは中野市か商工会議所ではないかと思う。観光に力を入れるために中野市はどうやるか。そのプラットフォーム

ホーム（組織）を作ることが課題だと思う。早急に作りたい。ただし、今は情報発信。

政策ディメンション

- 今年はP D C AのPの年だと思っている。「経済産業」「都市基盤整備」「音楽・文化・観光」「健康・福祉・教育」、この政策ディメンションのすべての切り口を「交流 連携」で切ってみようと思う。人材育成とあるが、農商工連携にからめて、中野市に行ったら土地があり、農業技術が学べて、技術者がいて、起業に向けた勉強ができる。一気に通貫で生産から加工販売まで学べ、ファンドがついて、起業ができる、という仕掛けができないだろうか。
- 空き家利活用対策はもう都会では始まっている。空洞化してくるなら住んでもらうしかない。住んだら特典がある。ただし、高齢化したコミュニティーが維持するように町内会には必ず参加してもらおう。
- 健康ツーリズムについては9市町村で可能性を考えている。
- 私たちはもっと中野市のことを勉強しなければならないと思う（信州中野学）。この街はすごいんだという誇りを前面に出せる教育をしたい。
- 横浜と関係を結びたい。生糸にからめた山田家を通じた結びつき。
- 新幹線を中心に交通の整備を考える際、飯山駅から放射線状に整備すればよい。（ゾーニング）
- 豊田地域の『故郷』のふるさと、ここを行列ができるような観光地にするのではなく、1日限定10組、そういう売り方をする。1日10組で人は殺到する。そこで「味わいたかった日常」を提供したらどうか。行列ができるようなところにしてしまうと『故郷』のふるさと」という魅力がなくなる。要は観光地の“作り方”。
- 例えば立ヶ花～古牧橋の2時間半のラフティング。人はやってくる要素はたくさんある。中野市にはたくさんの資源がある。

終わりに

- みなさんのお仕事に関する産業政策については、税の問題、立地環境の問題等も随時お伺いしますので、また市政の発展のためにご協力いただければと思います。

質疑応答

- Q （資料で使った）写真は市長自ら撮影したものでですか？
- A 借りたものです。一部は職員が撮ったもの。今、撮りためているところ。ひとつやりたいのは、中野市の写真集を作ること。飯山駅に提案しているが、ハイビジョンのビデオを作ってもらって、待合室などで中野市の紹介をしたい。中野市にはこんなところがある、次は中野市へという情報発信。